

総務一般

総 務 一 般

1 機構及び職種別人員（平成13年3月現在）

区 分	事務吏員	技術吏員	その他	計
所 長		1		1
次 長	1	2		3
総 務 課	3	4	4	11
企画情報室		3		3
資源研究部		4	1	5
養殖研究部		4	1	5
漁場環境研究部		3	1	4
利用加工研究部		2	1	3
応用技術研究部		3	1	4
内水面研究所		3	2	5
計	4	29	11	44

2 職員の職・氏名

所 長	伊勢田 弘志 (H12.4.1転入)	養殖研究部	
次 長	大塚 重行	部 長	平岡 政宏
次 長	岩下 徹	研究参事	濱竹 芳久
次 長	石田 宏一 (H12.4.1転入)	主任技師	鮫島 守
総務課		技 師	那須 博史
次 長 (兼総務課長)		技 師	藤田 忠勝
	大塚 重行	漁場環境研究部	
参 事	穂口 能婦子	部 長	木村 武志
主 事	玉田 誠志 (H12.4.1転入)	技 師	安東 秀徳
主 事	三原 晶子 (H12.4.1転入)	技 師	吉村 直晃 (新採)
船舶 (ひのくに)		技 師	小山 長久
船 長	浦壁 英輔	利用加工研究部	
機関長	岩崎 直人	部 長	平山 泉 (兼任)
主任技師	松波 朝光	主任技師	村岡 俊彦 (H12.4.1転入)
技 師	水野 静春	主任技師	長山 公紀
技 師	野口 健二	技 師	増田 雄二
技 師	前田 健作	応用技術研究部	
技 師	坂本 和彦	部 長	深浦 雄一
船舶 (あさみ)		主任技師	山下 幸寿 (H12.4.1転入)
船 長	門 秀喜	技 師	菊川 里香 (H12.4.1転入)
企画情報室		技 師	倉田 清典
主 幹 (兼室長)		内水面研究所	
	河邊 博 (H12.4.1転入)	所 長	南部 豊揮
専 技	宮本 雅晴	主任技師	清田 季義
専 技	木村 修	技 師	松尾 竜生
資源研究部		技 師	岩村 征三郎
部 長	平山 泉 (H12.4.1転入)	技 師	栃原 正久
研究参事	中尾 和浩		
主任技師	陣内 康成		
主任技師	山下 博和 (H12.4.1転入)		
技 師	鳥羽 瀬憲久		

3 職員の転出

平田 満	退職	加来 照雄	天草地域振興局水産課
吉田 好一郎	漁業取締事務所	向井 宏比古	天草地域振興局水産課
土山 真樹夫	菊池地域振興局総務課	森山 秀樹	環境保全課水保全対策室
鎌賀 泰文	漁政課	北野 健	退職
安藤 典幸	天草地域振興局水産課	宮原 才郎	(財)熊本県栽培漁業協会
宮崎 孝弘	八代地域振興局水産課		

企 画 情 報 室

研究開発研修事業（^単 県 昭和63年度～継続）

1 目的

近年のめざましい水産技術の革新に的確に対応するため、各種技術研修を行うことにより職員の資質向上を図るとともに、これらの研修成果により効率的な試験研究を行い、本県の水産業の振興に資することを目的に実施した。

2 方法

(1) 担当者 宮本雅晴、木村修、河邊博

(2) 方法

ア 魚病技術者研修

魚病対策に必要な技術者の育成及び魚類防疫士の養成を図るため、(社)日本水産資源保護協会(東京都)が実施する魚類防疫士養成コースへ担当職員を派遣した。

3 結果

表1のとおり、平成12年5月から平成12年10月の期間に魚病技術者研修の各コースを計4名が受講した。

表1 魚病技術者研修実施状況

研修名 (期日、日数×回数)	1 目的 2 課目名(テーマ) 3 内容	講師	受講者
		所属 氏名	
魚病技術者研修 ・魚類防疫士養成コース第1年次研修 (期日：平成12年5月24日～6月9日、16日×1回)	1 魚病対策に必要な技術者の育成及び魚類防疫士の養成を図る。 2 第1年次研修 3 魚病診断に必要な魚病学総論等基礎技術研修	東京大学教授 若林久嗣 ほか9名	応用技術研究部 主任技師 山下幸寿
・魚類防疫士養成コース第2年次研修 (期日：平成12年8月24日～9月12日、16日×1回)	1 魚病対策に必要な技術者の育成及び魚類防疫士の養成を図る。 2 第2年次研修 3 魚類生理学、魚類病理学、ウイルス実習、細菌実習ほか	東京大学教授 若林久嗣 ほか9名	養殖研究部 主任技師 那須博史 内水面研究所 技師 松尾竜生
・魚類防疫士養成コース再教育コース(期日：平成12年10月17日～10月19日、3日×1回)	1 魚類防疫士取得者を対象に新技術を研修し、資質向上を図る。 2 ①エビ類のウイルス病について ②淡水魚のウイルス病について 3 同上	水産庁養殖研究所 中島員洋 ほか4名	養殖研究部 主任技師 那須博史

水産業広報・研修事業（^県平成2年度～^単継続）

1 目的

試験研究で得られた成果や研究経過について、「研究成果発表会」・「水研センターニュース」・「事業報告書」等を通じ、漁業者、漁業関係機関、一般県民等への広報を行った。また、研修センターを管理・運用し、「科学する漁業者の育成」を推進し漁業者の資質向上を図るとともに、漁業関係団体の視察研修や技術研修等各種研修の受入を行った。なお、研修センターは広く一般に開放しており、水産業の現状や役割等について一般県民への啓発等を行った。

2 方法

(1) 担当者 宮本雅晴、木村修、河邊博

(2) 内容

ア 広報事業

① 研究成果発表会の企画・実施、② 水研センターニュースの編集・発行、③ 事業報告書の編集・発行、④ 研修センターの管理・運用

イ 研修事業

① 技術研修生の受入、② 視察研修の受入、③ 小学・中学・高校等教育機関の研修受入(社会科学習、教職員研修、インターンシップ研修等)

3 結果

(1) 広報事業

① 研究成果発表会の開催：平成13年2月16日に水産研究センター大研修室において、研究成果発表会を開催した。「農林水産統計等からみた本県の水産資源の動向について」ほか3課題について発表した。

参加者数は約100名であった。また、平成13年3月2日に内水面研究所において内水面研究報告会を開催した。「外来魚の課題と研究の現状」ほか1課題について報告し、内水面漁協等との意見交換を行った。参加者数は、約30名であった。

② 水研センターニュースの発行：水研センターニュース「ゆうすい」第5号（平成12年8月）及び第6号（平成13年1月）を発行し、県内漁協ほか関係機関に配布した。

③ 事業報告書の発行：各部署から提出された原稿を編集し、事業報告書として平成12年11月に発行した。また、印刷物を各県の水産試験研究機関ほか関係機関に配布した。

④ 研修センターの管理・運用：水産研究センターパンフレットを発行し、研修センターで来館者に配布した。平成12年度の来館者数は、14,031人であった。その他、展示魚・展示水槽等を整備した。

(2) 研修事業

① 技術研修生の受入：(財)熊本県栽培漁業協会職員ほか2件の技術研修生を受入れた。研修内容は魚病診断技術、ノリ養殖技術、栽培漁業技術等で、受入日数は3件で計208日であった。

② 視察研修の受入：玉名市水産振興連絡協議会ほか県内外の漁協、漁業関係機関等9件(延べ120人)の視察研修を受入れた。内容はノリ養殖やアサリ増殖等の漁業振興に関するものが多かった。

③ 小学・中学・高校等教育機関の研修受入：御所浦町立牧島小学校ほか小学校から大学までの教育機関関係等15件(延べ277人)の研修を受入れた。内容は、社会科学習、教職員研修、インターンシップ研修等で、フランスからの教職員研修も1件あった。

水産試験場創立百周年記念事業（^県平成12年度^単）

1 目的

熊本県水産研究センターは旧水産試験場創立から数えて平成12年度において100周年を迎えるが、これを機に本センターの業績と今後果たすべき役割を確認し、水産業並びに水産業に関する試験研究に対する県民の理解を得ること等を目的として実施した。

2 方法

- (1) 担当者 木村修、河邊博、宮本雅晴
- (2) 内容 水産研究センターの記念開放、記念式典及び記念講演、記念誌の発行

3 結果

- (1) 水産研究センターの記念開放

ポスター・リーフレットの配布、メディアへの周知、部長会見、県や町の広報誌、テレビ番組での紹介などで広報を行い、下記の内容で実施したが、午前中の雨にも係わらず約800人が来場した。

記

ア 日時：平成12年8月20日（日）午前9時～午後4時

イ 場所：水産研究センター（天草郡大矢野町大字中 2450-2）

ウ 内容

- ① パネル展示（研究内容、業績・沿革、本県の漁業の紹介、漁網・漁具の展示）
- ② 観察・ふれあいコーナー（顕微鏡でプランクトン等の観察、海の生き物とのふれあい、名前あてクイズ）
- ③ ビデオ上映（海、水産業、環境保全等）
- ④ 魚釣り体験コーナー（実験プールに放流したマダイを釣る）
- ⑤ 試験調査船体験乗船（湯島まで往復の体験航海、海洋観測、機器の操作体験）
- ⑥ 内水面コーナー（金魚すくい）
- ⑦ 茶洋高校コーナー（実習製品販売、学校紹介）
- ⑧ 魚食普及コーナー（パネル展示、魚料理の紹介、水研センターで開発した食品の試食）
- ⑨ 県産品販売紹介コーナー（大矢野町、津奈木、本渡市、五和町、天草町、八代市、養殖、水産加工の各漁協の加工品の販売、紹介。大矢野漁協婦人部、大矢野町商工会婦人部の軽食の販売）
- ⑩ 海の羽根コーナー（パネル展示、ゴミ袋の配布、海のゴミのサンプル展示）
- ⑪ 地魚料理コンテスト（漁協婦人部等による養殖マダイと地魚の料理）

- (2) 熊本県水産試験場創立百周年記念式典及び記念講演会

ア 日時：平成12年8月25日（金）午後1時～3時

イ 場所 グランメッセ熊本（上益城郡益城町福富 1010）

ウ 参集範囲：水産庁西海区水産研究所、熊本大学、九州漁業調整事務所、九州農政局、県議会、沿海市町、漁協、関係団体、県水産OBなど約170人

- ① 記念式典（13:00～13:45）
- ② 記念講演（14時～15時）水産業と食に関する講演「これからの水産業のあり方」
講師：経営コンサルタント「元」総合研究所 所長 江崎拓郎

- (3) 百周年記念誌の発行

平成13年3月に沿革、業績、追想録等を記載した178頁の「水産試験場創立百周年記念誌」を発行し、関係機関へ配布した。

漁業者専門研修事業（県 単 平成12～14年度）

（漁業者セミナー）

1 目的

漁場環境の悪化、資源の減少、魚価の低迷など、現在の水産業を取り巻く状況には厳しいものがあり、この状況を打開するためには、人づくりが大切であると考えられる。

そこで、新しい知識や技術、最新の情報、他業種との交流の場等を提供することを目的として、漁業者向けのセミナーを開講した。

2 方法

(1) 担当者 木村修、宮本雅晴、河邊博

(2) 方法

ア 内容

セミナーは、表1のとおり、教養、専門、技能の3コースで構成し、7つの講座を設けた。

表1 セミナー内容

コース名	講座名	講座の目的	受講対象者
教 養 コース	基礎講座	将来の中核的漁業者の育成を図るため、近代的な漁業経営に必要な漁業・海洋に関する基本的な知識・技術を修得する。	漁業者 (漁協職員、市町 村職員含む)
	リーダー 養成講座	地域をリードする中核的漁業者として必要なリーダーシップのあり方や、人間関係に関する技術を修得する。	
専 門 コース	ノリ養殖講座	ノリ養殖業を営むための基本的知識と最新の技術を修得する。	漁業者
	魚類養殖講座	魚類養殖業を営むための基本的知識と最新の技術を修得する。	
	漁船漁業講座	漁船漁業を営むうえで重要な知識と最新の技術を修得する。	
技 能 コース	潜水士講座	潜水士(国家試験)取得に必要な知識を習得する。	漁業者
	パソコン講座	漁業者として、パソコンを活用するための基礎的知識・技能を修得する。	

イ 受講対象者

主として県内漁業者を対象としたが、漁協職員・沿海市町水産関係職員、漁連、その他の水産関係団体職員等も受け入れた。

ウ 受講者の募集

パンフレットを作成し、県内各漁協、漁業関係団体、沿海市町、県関係部署に配布した。その他、水産業改良普及員が普及現場において募集を行った。

3 結果

表2のとおり、平成12年6月8日から平成13年2月27日の期間に7講座を実施した。

参加者は、漁業者・漁業職員等で、各講座9名～28名が受講した。受講者が最も多かったのはパソコン講座であり、本県水産業界においても情報技術の推進についての意識が高いことがうかがえた。

延べ参加者数は106名となり、受講者には、修了証を発行した。

表2 漁業者セミナー実施状況

実施日	講座名	講習内容	講師	参加者数
H12.06.08	基礎講座	本県水産業の現状と問題点 海の環境について 水産業協同組合法と漁協の役割 漁業経営と営漁簿 水産物の取り扱いと加工（実習）	漁政課企画流通係 神戸主幹 漁場環境研究部 安東技師 漁政課組合金融係 西本参事 県漁連指導部組織強化推進課 永田職員 利用加工研究部 平山部長 村岡主任技師 長山主任技師	12
H12.06.09	リーダー 養成講座	水産業の役割と将来の水産業 リーダーシップと人材育成	熊本大学教育学部 浅川教授 熊本大学教育学部 吉田教授	13
H12.06.12	ノリ養殖 講座	ノリの生理生態 ノリ養殖経営の効率化 ノリの製造加工のメカニズムと衛生管理 ノリ養殖を巡る諸問題（討論）	養殖研究部 濱竹研究参事 熊本県漁連海苔技術指導部 桑鶴部長 熊本県海苔養殖連絡協議会 本田副会長 利用加工研究部 村岡主任技師 長山主任技師 西部産業株式会社 内田社長 熊本県漁連海苔指導部 ほか	19
H12.06.28 ～ 29	潜水士講 座	潜水業務、送気、潜降及び浮上、 高気圧障害、関係法令	サガ潜水 〃	10
H12.07.25	パソコン 講座	パソコンの基礎 パソコンの応用 一次産業への応用事例	熊本大学教育学部 吉田教授 〃 〃 横島町 古田氏	28
H13.02.09	漁船漁業 講座	栽培漁業・資源管理型漁業の取り 組み状況 遊漁と漁業の共存の法的背景 資源回復計画について 水産物流通システムの現状と将来の姿 これからの漁船漁業経営（討論）	資源研究部 平山部長 漁政課漁業調整係 山田参事 水産振興課漁業生産係 渡辺主任技師 熊本学園大学商学部 小川助教授 御所浦町漁協 指導漁業士 長塚氏 津奈木町漁協 青年漁業士 新立氏	15
H13.02.26 ～ 27	魚類養殖 講座	養殖魚類の生理生態及び栄養要求 と飼育管理 種苗生産の現状と上手な種苗導入 本県海域における富栄養化の実態 熊本県新魚類養殖基準について 魚類養殖における新しい試み 養殖魚の流通・経営と今後の展望 輸入養殖生産物の増加にいかに対応するか 魚類養殖における漁場環境とその 改善及び赤潮対策 パソコンを使った適正給餌（実習） 養殖魚の疾病と対策 魚病診断（実習）	養殖研究部 鮫島主任技師 県栽培漁業協会 水本大矢野事業場長 環境保全課 吉永主幹 水産振興課漁業生産係 吉田参事 鹿児島大学水産学部 門脇教授 パイロットファーム生産組合 濱組合長 ㈱日本養殖新聞 小野編集記者 漁場環境研究部 木村部長 天草地域振興局水産課 養殖研究部 那須主任技師 養殖研究部 鮫島主任技師 那須主任技師	9

水産業改良普及事業（国庫補助 昭和28年度～継続）

1 目的

沿岸漁業の生産性の向上、経営の近代化及び技術の向上を図るため、漁業者に対して技術及び知識の普及指導を行い、漁業者の自主的活動を促進する。

2 方法

- (1) 担当者 木村修、宮本雅晴、河邊博
- (2) 方法 普及事業関係会議等の開催及び企画、水産業改良普及員の指導、漁業者に対する支援・指導

3 結果

- (1) 普及事業関係会議等の開催及び企画
 - ア 水産業改良普及事業に関する下記の会議を開催または企画した。
 - ① 平成12年度水産業改良普及事業連絡会議(平成12年4月、平成12年度の普及体制、事業計画の検討)
 - ② 平成13年度水産業改良普及事業事業計画検討会(平成12年9月に2回、10月に1回実施、平成13年度水産業改良普及事業計画の検討)
 - ③ 漁業士と林業士の合同研修会実施内容検討会(平成12年12月、平成13年度の実施内容の検討)
 - ④ 水産業改良普及事業実施状況検討会(平成13年2月、新体制下での問題点の抽出)
 - ⑤ 水産業改良普及事業関係検討会(平成13年3月、新体制下での問題点の解決策の検討、13年度イベントの集中実施の検討)
 - イ イベント等の企画、実施
 - ① 第5回漁業士、林業士・指導林家合同研修会(県主催：平成12年6月21日～22日、玉名市及び岱明町)
 - ② 第4回熊本県青年女性漁業者交流大会(県、県漁連共催：平成12年8月25日、グランメッセ熊本)
 - ③ 第2回熊本県地魚料理コンテスト(県漁婦連主催、県後援：平成12年8月20日、水産研究センター)
- (2) 水産業改良普及員の指導等
 - ア 各地域振興局水産課の例会に出席し、普及事業について指導した。
 - イ 漁村活性化ビジョン作成会議に出席した。
 - ウ 各地区の青年漁業者活動協議会に出席した。
 - エ 普及事業に関する報告書の取りまとめをおこなった。
- (3) 漁業者に対する支援・指導
 - ア 各地区漁業士会の総会、分科会等へ出席した。
 - イ ノリのカキ殻糸状体の検鏡及び培養指導を行った。